

東日本前期古墳埋葬施設の基礎的検討（集成編）

いし ばし ひろし
石 橋 宏

東日本前期古墳埋葬施設の基礎的検討 (集成編)

いし げし ひろし
石 橋 宏¹⁾

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1. はじめに | 4. 中期古墳の埋葬施設の評価 |
| 2. 集成にあたっての分析視点 | 5. おわりに |
| 3. 東日本の前期古墳埋葬施設の集成 | |

東国¹⁾では舟形木棺2類と箱形木棺が卓越した分布状況を示し、近畿の様相とは明らかに異なることを木棺形式分布図と集成図を示すことで明示した。岩崎卓也氏の指摘した前期後半の粘土椀+割竹形木棺の齊一的波及や土器様相などから王権の段階的な影響力の強化²⁾を読みとる見解が現在も影響を与えていると考え、再検討の必要性を指摘するとともに、前期古墳の棺の評価は中期古墳の棺の評価とも関わることを予察した。

1. はじめに

前稿(石橋2015)で東日本の前期古墳の埋葬施設についての若干の見通しを述べた。近年いくつかの前期古墳の木棺について関わることもあり、それぞれの地域の周辺の事例を集成しているうちに長大な刳枝式木棺の事例が割竹形木棺ではないことに気付き、岩崎卓也氏の指摘した東日本型埋葬施設(岩崎1987)を再構築できる可能性があるものの、前期後半に粘土椀とともに割竹形木棺が波及するという理解には警鐘を鳴らすことが目的であったが、筆者の力量不足により充分には伝えきれなかった。

特に一番問題なのは、東日本の埋葬施設が判明した前期古墳が大幅に増加し、全てを把握するのが難しくなっていることである。1981年の日本考古学協会の栃木県でのシンポジウム(日本考古学協会1988)の集成や岩崎卓也氏の検討(岩崎1987)以後、事例が多数増加したものの、改めて再検討することはなかったように思う。前稿や今後の考察の妥当性を判断していただくには、事例を一度集成し、表示することが必要なのではないかと考えるに至った。

完全ではないが、傾向を把握する程度の資料は集成したと思われるので、本稿に集成図と基本文献を掲載した。かなりの紙数を割いたため、東日本の前期古墳の埋葬施設の地域性と畿内の前期古墳の様相との比較は本稿と対になる次稿(比較検討編)で述べる予定である。

2. 集成にあたっての分析視点

木棺についての研究史は一度触れたことがあるが、不十分であり、かつ堅穴式石椀や粘土椀などの棺を納める施設に関わる研究史についても関連させてまとめる必要がある。本来であれば本稿に載せるべきであるが、今回は集成を目的としたものであることから、詳細な研究史は次稿にゆずり、前稿と同様に木棺形態については岡林孝作氏の見解(岡林2009)を基準に、特に舟形木棺2類は石橋氏と筆者の成果を踏まえた分類基準(石橋2001・石橋2013)を採用する。

岡林氏は木棺遺存資料を集成し、古墳時代の木棺を構造から刳枝式木棺(割竹形木棺・舟形木棺1類・舟

1) 平成27年4月～ 東北大学埋蔵文化財調査室

形木棺2類)、組合式木棺(箱形木棺・長持形木棺)、釘付式木棺に大別し、形態分類を加えて整理する。

割竹形木棺は小林氏の定義に従い、「…大きな樹木をたてに2つに割り、それぞれ内部を割りぬいて、蓋および身とした円筒形の木棺」で、端から他端に向けて幅が狭まり、小口を垂直に仕上げたものを指し(小林1959)、端部が開放される貫通式と端部を削り残す非貫通式に分ける。さらに小口部に着目し、木棺の痕跡から端部が直線的なA型、平面「コ」の字形になるB型、外側から板で抑えられるため、「H字」状になるC型に分けられることを明らかにした(岡林2008)。

割竹形木棺は定形的であり、遺存資料に加え、粘土椁内部に木棺痕跡が残りやすい。奈良県下池山古墳では、非貫通式の割竹形木棺棺身(図1-1)の大半が遺存しており、基本的には半円形で、一部平端に削られた面があることが明らかにされ、棺痕跡の横断面が全て半円形を呈するわけではないことが判明した(奈良県立橿原考古学研究所2008)。石川県雨の宮1号墳では粘土椁に木棺痕跡が良好に遺存しており(図1-2)、副葬品の配置も考慮にいれて3区画に区分された突起を持つ割竹形木棺が復元された(鹿西町教委2005)。同様に粘土椁に木棺痕跡が良好に遺存していた大阪府和泉黄金塚古墳中央粘土椁(図1-3)では、木棺小口部分に別材の板をあてたことが判明している(末永・島田・森1954)。貫通式については滋賀県市三宅東遺跡で溝から割竹形木棺の蓋と考えられる製品(図1-4)が出土し(野洲市教委2010)、弥生時代後期には出現していることが明らかとなった。大阪府久宝寺1号墳では定形の割竹形木棺(図1-5)が検出され((財)大阪府文化財センター2003)、形態と構造について重要な情報が蓄積した。

舟形木棺1類は、棺底が全体に緩やかな舟底状で、横断面の曲率が緩く、全体に扁平な形状な木棺である。幅は一端が狭く他端が広いが、軸先と軸の区別がないものである。遺存資料が存在しないため、特に蓋の形態が良くわからない。割竹形木棺より先行して前期前半を中心に西日本の大型古墳に採用されていることが予測される。

良好な遺存資料がないため、竪穴式石椁の粘土棺床の横断面が割竹形木棺に比べ緩いことなどが注目され、滋賀県雪野山古墳の調査において粘土棺床に環状縄掛突起の痕跡を持つ横断面の緩い木棺痕跡(図1-6)が確認され(八日市市教委1996)、これが佐賀県熊本山古墳の舟形石棺(図1-7、佐賀県教委1967)に似ることから、ある種の舟形石棺に類似するのではないかと考えられている。

舟形木棺2類は丸木舟など釣船を意識したもので、軸先と軸を造り分け、小口端部が斜めになるなど大きな特徴がある。従来からその存在は指摘されていたが、特に石崎善久氏は丹後の弥生時代から古墳時代の木棺の痕跡を丹念に検討し、舟の形を呈する木棺を「舟底状木棺」と呼称した。丸木舟との比較から、丸木舟の転用か丸木舟あるいは準構造舟の下部構造を模倣したもので、両小口の平面形が丸みを持つもの、左右対称にならず、一方の小口が鋭角に弧状を呈するA類(筆者のC形式)、A類同様両小口が丸みを持ち、左右対称となるB類(筆者のD形式)、小口が隅丸方形となるC類(筆者のE形式)という3形式に分類した(石崎2001)。筆者も石崎氏の分類基準を基に若干の追加を加え(図2)、全国的に集成した(石橋2013)。今回もこの分類基準を採用する。

弥生時代後期は方形台状墓を中心に丹後に分布の中心があり、古墳時代では静岡県と千葉県を中心とする関東地方に類例が多い。愛知県名古屋手平町遺跡方形周溝墓Dで弥生時代中期のA形式の事例(図1-8)が確認されており、今後認識が進めば、さらに検出事例が増えることが予想される。

なお箱形木棺の形態については特に東日本では遺存資料が少なく、構造が不明な点が多い。弥生時代の事例については福永伸哉氏の分類(図4)が関東にも援用できると考えている(福永1985)、古墳時代にも同様な箱形木棺の痕跡が存在している事例があり、参考にしたい。



図1 割竹形木棺と舟形木棺の構造



図2 舟形木棺2類の分類

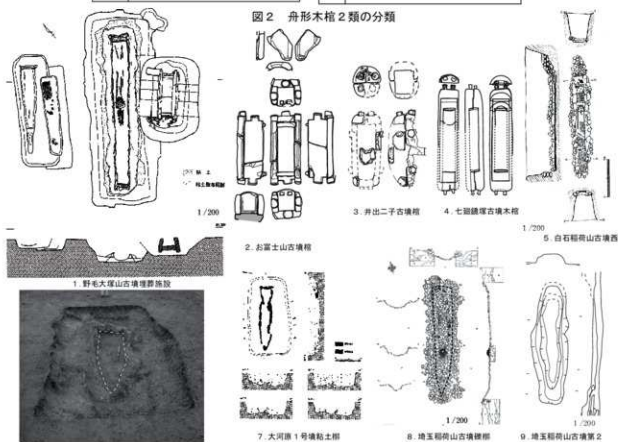


図3 中期古墳の埋葬施設

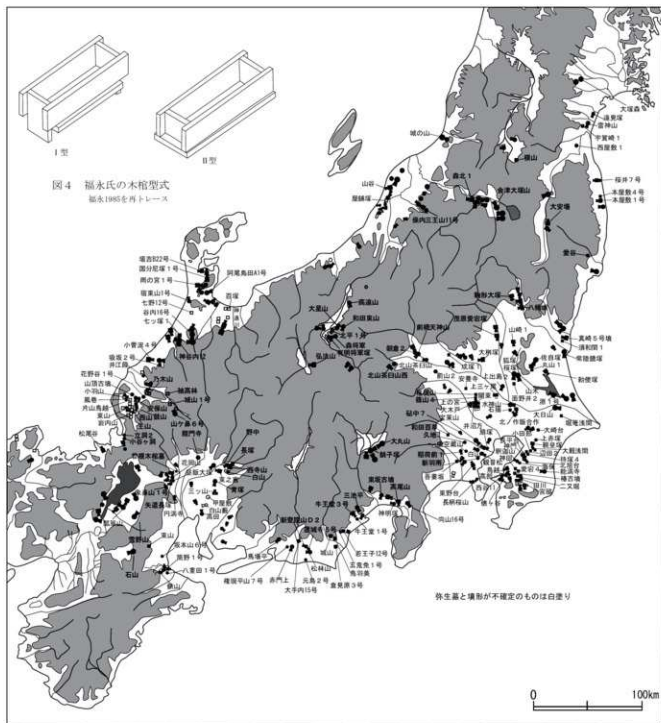


図5 集成古墳位置図

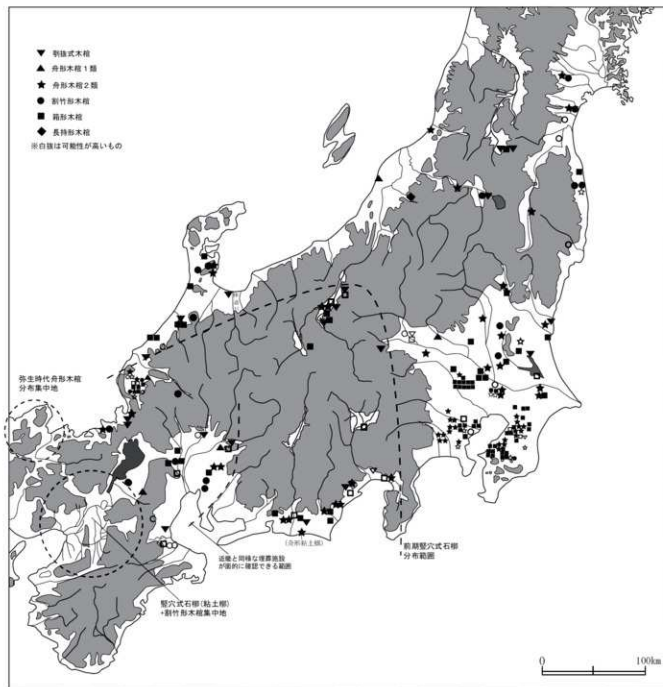


図6 東日本前期古墳木棺形式分布図

上記の木棺形式を念頭に東国の埋葬施設を考えるにあたって、特に木棺直葬の事例については非常に注意が必要である。粘土柩ないし粘土床、あるいは小口に粘土を置いて押さえとする事例については木棺痕跡が通りやすく、棺形式を把握しやすい。一方で木棺直葬の場合、墓壇の形態がそのまま木棺形式に反映しているわけではないことは多くの事例より判明している。墓壇と木棺の間に土をつめ、押さえとする箱形木棺や割抜き式木棺の事例は多いので、土層や写真を参考に復元しなければならないが、検討事例の全てが基準を満たしているわけではない。それでもあえて木棺形式図(図6)を作成したのは、遺存木棺や粘土柩の痕跡から舟形木棺2類の存在は明らかで、割竹形木棺とは区別し、今後批判的に検討していただきたいからである。

3. 東日本の前期古墳の埋葬施設の集成

古墳時代の時期区分は和田晴吾氏の成果に拠る(和田1987)。古墳時代に大型古墳が築造された近畿中核(大阪・奈良・京都南部)を便宜的に「畿内」とし、古墳時代の開始とともに形成された首長連合について特に和田晴吾氏の指摘(和田1994)する「畿内首長連合」及びその相対的権力を倭王権とする。なお墳墓における埋葬施設の名称と定義は和田晴吾氏に従い、「棺」、「柩」、「室」の用語を利用する(和田1989)。

また、埋葬施設の図面の掲載にあたり、弥生時代終末期(庄内式期併行)について、北陸地方は方形区画墓(台状墓・周溝墓)とその周縁墓の良好な調査が多く、割抜き式木棺と思われる事例は掲載したが、最も普遍的な箱形木棺は掲載していない。関東地方では弥生時代終末期から古墳時代前期の方墳(方形周溝墓)の埋葬施設の判明する事例が千葉県以外に少なく、判明する事例はなるべく図面を掲載した。これは弥生時代の動向を加味して検討できるようにするためである。また、一部中期初頭に下る可能性のある事例も掲載している。

ただし、棺形態分布図については弥生時代終末期の事例は前方後円形墳丘墓(前方後方形墳丘墓)の事例を除き除外し、古墳時代の事例を反映させた。

集成の範囲は太平洋側を三重県以東、日本海側を福井県以東としているが、これは筆者の力量不足で、滋賀県や京都府などの状況まで整理が及ばなかったことによる。

今回の集成で、前方後円墳(含前方後円形周溝墓)50基、前方後方墳(含前方後方形周溝墓)39基、円墳34基、方墳(含む方形区画墓)83基、石柩墓2基(図5)の埋葬施設268基の図面(集成1~15)を掲載した。基本的傾向は前稿で指摘した通り、広範囲に箱形木棺が多数分布し、関東地方や東海地方には、加えて舟形木棺2類が多いことが読みとれる(図6)。愛知県や岐阜県では面的に近畿地方の典型的な埋葬施設である竪穴式石柩や粘土柩、割竹形木棺が確認され、愛知県高田古墳(粘土柩+割竹形木棺)の位置を目安に近畿と同様な埋葬施設の情報が共有される範囲の境界と指摘できる。これはコウヤマキ製木棺の明確な選択的材材範囲の東限である愛知県西部、岐阜県南部(岡林2006)とも対応するものであろう。

箱形木棺の事例が多いのは、弥生時代の方形区画墓(台状墓・周溝墓)からの延長で捉えられる方墳の埋葬施設の事例の多くが箱形木棺であることに理由があるが、大型古墳の箱形木棺の事例も同様の構造の木棺(Ⅱ型木棺か(図4))が復元できる可能性は充分にある。一方で畿内では粘土柩の成立が箱形木棺という棺形式と結びついて成立し、関東地方にも波及した可能性を指摘する上田直弥氏の研究成果があり(上田2015 a・2015 b)、粘土柩+箱形木棺の事例については慎重な検討が必要となる。

舟形木棺2類は弥生時代後期から終末期に日本海沿岸部など北陸地方に事例が多く、古墳時代前期前半にかけて東北・関東地方の前方後円墳・前方後方墳・円墳・方墳と幅広い階層に認めることができ、筆者は畿内の古墳文化の波及のみで説明できないと考える¹⁰⁾。関東地方は粘土柩の多い地域であるが、粘土柩に採

用される事例も多く、粘土槨+割竹形木棺の齊一的波及については成り立たないと考える。

細かく見ていけばさらに細かい地域様相や地域間交流について言及できるが、次稿で今回集成して判明した成果に、堅穴式石槨・粘土槨・木炭槨などの棺を覆う槨の情報を加えて、畿内も含めた地域間の影響関係を考察したいと考える。

4. 中期古墳の埋葬施設の評価

本稿を閉じる前に筆者の立場と東国の中期古墳について予察を述べたい。

古墳時代の棺の機能について筆者は基本的に和田氏の見解に賛同して研究を進めている。氏は古墳時代は血縁関係や婚姻関係といった同族関係が集団と集団との結合の基本原則を示した社会であり、棺は特定の同族ないしは、特定の同族を中心とした地域集団によりその形態や素材が習慣的に定まっており、葬送の場において、同族関係を端的に示すものとして有効に機能し、首長専用の棺が作り出され、階層による棺、槨の使い分けが進むと一層の政治色を強めつつ、複数の地域首長間の同族的結合を保障する制度的習慣として行なわれるようになると推察している(和田1994)。

筆者は基本的に前期に舟形木棺2類と大部分の箱形木棺は階層差も含みつつ東国の首長層の棺として定着したと考えており、この点を踏まえ関東の中期古墳の事例をいくつか取り挙げたい。

多摩川下流域周辺は前期に100m級の前方後円墳が相次いで築造され、中期初頭には帆立貝形前方後円墳の野毛大塚古墳(約82m)が築造される(野毛大塚古墳調査会編1999)。4基の埋葬施設が時期ごとに確認できるのであるが(図3-1)、第1主体部では粘土槨に典型的な割竹形木棺が納められていた。第2主体部には箱形石棺が埋設されており、これは畿内の中期の長持形石棺の影響が及んだと考えられる。

群馬県の太田天神山古墳(前方後円墳208m)やお富士山古墳(前方後円墳125m)の長持形石棺(図3-2)は畿内の竜山石製と比較しても同様の形態・技法が確認され、石工工人が派遣されており、被葬者は倭王権と強い結びつきが確認できる。

一方で、群馬県西部の白石稲荷山古墳(和田6期、前方後円墳140m)の後円部2基の埋葬施設のうち、西側の埋葬施設は舟形の礎床(図3-5)であり(後藤・相川編1936)、木棺が納められたとしたら、舟形木棺2類である可能性は充分ある。また、『辛亥』銘鉄剣が出土したことで著名な埼玉稲荷山古墳(和田9期、前方後円墳120m)の礎床(図3-8)も南側が軸先状に尖り、縦断面からA形式の舟形木棺2類の可能性が高い。第2埋葬施設(図3-9)も同様である(埼玉県教委1980)。ほぼ同時期の古墳として埼玉県大河原1号墳(円墳17.6m)の粘土槨では、稲荷山古墳と類似するA形式の舟形木棺2類(図3-7)が納められていたことが明らかにされ(坂戸市教委2012)、栃木県の中期古墳牧の内34号墳の粘土槨に納められた木棺(図3-6)もその痕跡から同形態に復元⁽⁴⁾できる。これは前期以降も継続して舟形木棺2類が採用されていたことを示すものである。

関東の中期古墳の埋葬施設のこうした様相は二つの重要な視点を与えてくれる。

一つ目は図6の示すように前期は割竹形木棺は限定的な存在であり、中期古墳に割竹形木棺や長持形石棺、長持形石棺を模倣した箱形石棺など倭王権と関係のある棺の採用は前期からの段階的な棺情報の刷新と捉えるべきではなく、中期に倭王権との直接的間接的な関係を強め、畿内のな棺を使用したことを示す。

二つ目は、中期古墳も継続して舟形木棺2類と箱形木棺が使用されており、前期と同様大型古墳から小円墳まで幅広い階層で確認できることであろう。

この二つの側面は相反するものではなく、表裏の関係にある。

これを示してくれるのが群馬県の舟形石棺である。群馬県西部では5世紀後半に舟形石棺が採用されるが、当初(和田8期)は岩鼻二子山古墳(前方後円墳115m)など限定的で、形態は長持形石棺を模倣したもので倭王権との関係や権威を示したものであろう。次の和田編年9期の井出二子山古墳(前方後円墳108m)の段階で群馬県西部の各地の古墳に舟形石棺が階層性をもって採用され、舟形石棺地域圏(右島1990・右島・徳田1998)が成立する。

井出二子山古墳の舟形石棺(図3-3)は平面形が隅丸方形で、形態の系譜は栃木県七廻鏡塚古墳(円墳約30m、図3-4)などの舟形木棺2類の形態を基にしたものである。地域首長連合内の同族結合を象徴する棺の形態は伝統的な舟形木棺2類に求められたことが注目されよう⁹³⁾。

筆者は、地域首長連合を代表する首長は各地の地域首長連合や倭王権との関係を直接的・間接的に結んでおり、その時の被葬者の立場が棺に表象されると考えており、倭王権側との関係(擬制なものも含む)が強化され、その関係や権威を倭王権や地域首長連合内に示す必要性のある時期は畿内のな棺を採用し、地域首長連合内の同族結合や舟形木棺を採用する地域首長連合との関係を示す際に在地的な舟形木棺2類を採用することがあり、それが群馬県西部の舟形石棺の二つの形態に表出していると考え⁹⁴⁾。また、倭王権の影響力も時期により強弱があることが指摘されており(小野山1970)、地域によっても影響力が異なることも念頭に置く必要があろう。

5. おわりに

本来ならば中期古墳について触れずに、次稿に継続する予定であったが、東国では中期古墳の埋葬施設の研究が少なく、前期の研究から独立しているように感じたので、蛇足を承知で予察を加えたものである。中期古墳の埋葬施設には堅穴式小石塚や箱形石棺などさらに多様な状況も示すが、次稿の成果を踏まえてどのような階層や集団に採用されるのか、今後検討を加えたい。

註

- (1) 本稿の東日本ないし東国は近畿地方以東というおおまかな範囲を示す用語として使用している。
- (2) 土器様相や地域最大級の大型前方後円墳の出現など前期後半の画期の重要性は筆者も認めているが、粘土槨+割竹形木棺というように棺形態の情報まで刷新されたという理解に再検討が必要なのである。
- (3) 岡林氏が「古墳の棺柩の流れと弥生時代以来の姿で存続していたいわば在地的な埋葬施設の流れが相互に影響を及ぼしあいながら、一定の階層性、地域性をもって重層的に存在した姿が、前・中期の堅穴式の埋葬施設」と指摘(岡林2012, p. 278)した具体的様相を把握するのが前稿からの目的である。
- (4) 小山市教育委員会秋山隆徳氏から多くの点をご教授いただき、小山市教育委員会から画像の掲載許可を頂いた。
- (5) 群馬県の舟形石棺については特に石橋2013に詳説した。
- (6) このような様相は前期から確認できると推測しており、和田編年2期に築造された石川県分尾塚1号墳(前方後円墳約52.5m)がある種の木組み内部に割竹形木棺を納めるのに対し、後続する2号墳(前方後円墳33m)が異なる形態の棺と推測(和田1984)される棺(舟形木棺2類か)であることや、和田編年3期後半から4期に築造された墳丘長64mの前方後円墳雨の宮1号墳が典型的な粘土槨と割竹形木棺であるのに対し、ほぼ同時期に築造され、同様の規模である富山県阿尾島田A1号墳(前方後円墳70m)が舟形木棺2類であることは、多様な地域関係の中での被葬者の立場やその後の立場の変化を棺が端的に示していると考えている。かならずしも畿内のな棺が採用されたとして

もその後に継続して定着するわけではない。

参考文献

- 赤塚次郎 2001「付論6 墳丘墓と槽形木棺墓について」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第91集 川原遺跡』
- 石橋 宏 2013「古墳時代石棺秩序の復元的研究」六一書房
- 石橋 宏 2015「研究ノート 東日本前期古墳埋葬施設研究覚書」『研究紀要』第23号、(公財)とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター
- 石崎善久 2001「舟底状木棺考一丹後の割技式木棺一」『京都府埋蔵文化財論集第4集、(財)京都府埋蔵文化財センター伊勢崎市 1987『伊勢崎市史』通史編1、原始古代中世
- 岩崎卓也 1987「埋葬施設からみた古墳時代の東日本」『考古学叢考 中』吉川弘文館
- 上田直弥 2015 a 「粘土椽の展開課程とその画期一畿内の事例を中心に」『考古学研究』第62巻第3号、考古学研究会
- 上田直弥 2015 b 「粘土椽の展開とその背景」『ヒストリア』第253号、大坂歴史学会
- 大平町教育委員会 1974『七廻り饒塚古墳 栃木県下都賀郡大平町』
- 岡林孝作 2006「古墳時代木棺の用材選択に関する研究 平成15年度～平成17年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)」
- 岡林孝作 2008「割竹形木棺の小口部構造をめぐる問題点」『菅谷文則編 王権と武器と信仰』同成社
- 岡林孝作 2009「I 遺存木棺資料による古墳時代木棺の分類」『古墳時代におけるコウヤマキ材の利用実態に関する総合的研究 平成18年度～平成20年度科学研究費補助金基盤研究(B)(1)』
- 岡林孝作 2012「古墳各論 I 壙穴系埋葬施設(含棺)」『古墳時代研究の現状と課題』上、土生田純之・亀田修一編、同成社
- 小野山 節 1970「五世紀における古墳の規制」『考古学研究』第16巻第3号、考古学研究会
- 鹿西町教育委員会 2005『史跡雨の宮古墳群 国指定史跡雨の宮古墳群整備事業に伴う発掘調査報告書』
- 後藤守一・相川龍雄編 1936『群馬県史跡名勝天然記念物調査報告 第3輯 多野郡平井村白石稲荷山古墳』群馬県
- 小林行雄 1959「こうやまき」『図解 考古学辞典』水野清一・小林行雄編、東京創元社
- 埼玉県教育委員会 1980『埼玉稲荷山古墳』
- 佐賀県教育委員会 1967『佐賀県文化財調査報告書第16集 熊本山船型石棺墓』
- 坂戸市教育委員会 2012『大阿原遺跡2』
- (財)大阪府文化財センター 2003『久宝寺遺跡・龍華地区発掘調査報告書V』
- 末永雅雄・島田 暎・森 浩一 1954『和泉黄金塚古墳』日本考古学協会
- 高崎市教育委員会 2009『史跡保渡田古墳群 井出二子山古墳 史跡整備事業報告書』
- 名古屋市健康福祉局 2010『愛知県名古屋市 平手町遺跡第6次発掘調査報告書』
- 奈良県立橿原考古学研究所 2008『橿原考古学研究所研究成果 第9冊 下池山古墳の研究』
- 日本考古学協会編 1988『シンポジウム 関東における古墳出現期の諸問題』、学生社
- 野毛大塚古墳調査会編 1999『野毛大塚古墳』世田谷区教育委員会・野毛大塚古墳調査会
- 福永伸哉 1985「弥生時代の木棺墓と社会」『考古学研究』第32巻第1号、考古学研究会
- 野洲市教育委員会 2010『野洲市埋蔵文化財調査概要報告書 平成21年度』
- 右島和夫 1990「古墳からみた五・六世紀の上野地域」『古代文化』第42巻7号、古代学協会
- 右島和夫・徳田誠志 1998「東国における石製模造品出土古墳」『高崎市史研究』第9号、高崎市史編さん委員会
- 八日市市教育委員会 1996『雪野山古墳の研究 報告編 考察編』雪野山古墳発掘調査団編
- 和田晴吾 1987「古墳時代の時期区分をめぐって」『考古学研究』第34巻第2号、考古学研究会

和田晴吾 1989「葬制の変遷」『古代史復元6 古墳時代の王と民衆』、都出比呂志編、講談社

和田晴吾 1994「古墳築造の諸段階と政治的階層構成—五世紀代の首長制の体制に触れつつ—」『古代王権と交流5 ママト王権と交流の諸相』、荒木敏夫編、名著出版

和田晴吾 2009「古墳の地界観」『国立歴史民俗博物館研究報告』第152集、国立歴史民俗博物館

【集成図出典報告書】

三重県

一志町・桶野町遺跡調査会 1991『天花寺山』、一志町教育委員会

津市教育委員会 1970『坂本山古墳群・坂本山中世墓群』

松坂市 1978『松坂市史』第2巻・資料編、考古

松坂市教育委員会 1981『八重田古墳群発掘調査報告書』

三重県 2005『三重県史』資料編考古1

岐阜県

大垣市 2011『大垣市史』考古編

大垣市教育委員会 1997『曾根八千町遺跡』

可見市 2005『可見市史』第1巻、通史編、考古・文化財

関西大学考古学研究室 1968「岐阜県円満寺山古墳調査報告 岐阜県海津郡南濃町庭田」『関西大学考古学研究年報』2、

関西大学考古学研究会

岐阜県可見市教育委員会 1999『前波の三ツ塚』

岐阜市 1979『岐阜市史』資料編、考古・文化財

藤井治左衛門 1929「岐阜県不和郡青墓村大字矢道長塚古墳」『考古学雑誌』第19巻第6・7・9号、日本考古学会

養老町教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室 1998『養老町埋蔵文化財調査報告第2冊 象鼻山1号古墳—第2次発掘調査の成果—』

愛知県

愛知県 2005『愛知県史』資料編3、考古3、古墳、愛知県史編さん委員会

赤塚次郎 2005「13 三ツ山古墳群」『愛知県史』資料編3、考古3、古墳、愛知県史編さん委員会

赤塚次郎 2005「14 小木古墳群」『愛知県史』資料編3、考古3、古墳、愛知県史編さん委員会

大山市教育委員会 2014『大山市埋蔵文化財調査報告書第12集 史跡 東之宮古墳』

小牧市教育委員会 1980『三ツ山古墳』

南山大学人類学研究所 1977『人類学研究所紀要第6号 白山藪古墳発掘調査報告』

服部哲也 2005「122 高田古墳」『愛知県史』資料編3、考古3、古墳、愛知県史編さん委員会

静岡県

芦川忠利 2013「三島市向山16号墳の調査成果」『駿河における前期古墳の再検討』、静岡県考古学会

磐田市教育委員会 1973『磐田市竹之内原古墳発掘調査記録報告』

後藤守一 1939『静岡県磐田郡松林山古墳発掘調査報告』、静岡県磐田郡御厨村郷土教育研究会

後藤守一 1958『吉原市の古墳』、吉原市教育委員会

財団法人浜松文化協会 1988『妙法塚古墳』

(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 1998『元島遺跡』1

- 静岡県 1990『静岡県史』資料編2、考古2
- 静岡県教育委員会 1968『東名高速道路(静岡県内工事)関係埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 静岡県教育委員会 2001『静岡県の前方後円墳一個別報告編一』
- 静岡県立浜名高校・静岡県浜北市教育委員会 1966『遠江赤門上古墳』
- 静岡県磐田市教育委員会 2006『新豊院山道跡発掘調査報告書Ⅲ 新豊院山古墳群 D地点の発掘調査』
- 島田市教育委員会 1981『城山古墳第3次調査概報』
- 豊岡村教育委員会 2000『大手内古墳群』
- 沼津市教育委員会 2012『高尾山古墳発掘調査報告書』
- 藤枝市教育委員会 1983『志太広域都市計画蓮華寺池公園事業に伴う文化財調査概要 若王子・釣瓶落古墳群』
- 焼津市教育委員会 1981『焼津市埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ』
- 焼津市教育委員会 1982『焼津市埋蔵文化財発掘調査概報Ⅲ』
- 長野県**
- 更埴市森将軍塚古墳館編 2002『更埴市内前方後円墳範囲確認調査報告書一有明山将軍塚古墳・倉科将軍塚古墳一』
- 明治大学和田東山古墳群発掘調査団 1995『和田東山古墳群一和田東山古墳群第3号墳発掘調査概報一』
- 長野県考古学会 1993『信濃における古墳出現期の現状と課題』
- 長野県更埴市教育委員会 1992『史跡森将軍塚古墳一保存整備事業発掘調査報告書一』
- 長野県更埴市教育委員会 1992『史跡森将軍塚古墳一保存整備事業発掘調査報告書一』
- 長野県埋蔵文化財センター 1996『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 大星山古墳・北平1号墳』
- 長野県埋蔵文化財センター 1994『年報10 東平古墳群』
- 中野市教育委員会 2000『長野県中野市 高遠山古墳 発掘調査概報』
- 松本市教育委員会 1978『弘法山古墳』
- 山梨県**
- 中道町 1975『中道町史』
- 茂木雅博編 2007『伊斐 大丸山古墳 一埋葬施設の調査一』、博古研究会
- 神奈川県**
- 安藤広道 2015「観音松古墳の研究2ー新発見の写真と図面からみた墳丘と主体部の形態と構造一」、『史学』第85巻第1・2・3号、三田史学会
- 江藤 昭 1988『吾妻坂古墳 前期古墳の調査概報』、吾妻坂古墳道跡調査団
- 坂本 彰 1986「第5章 古墳時代 1、稲荷前古墳群」『横浜緑区史』資料編第2巻
- 柴田常忠・森貞成 1953『日吉加瀬白山古墳』、三田史学会
- 逗子市教育委員会・葉山町教育委員会 2012『国指定史跡 長柄松山古墳群第1号墳発掘調査報告書』
- 玉川文化財研究所 2006『横浜市港北区 新羽南道跡・新羽南古墳』
- 日本産業史研究所 1990『横浜市緑区虚空蔵山道跡』
- 久地伊屋之免道跡調査団編 1987『川崎市高津区久地伊屋之免道跡、高津区書友の会郷土史研究部 横浜市ふるさと財団 1992「東野台古墳群調査報告書」『調査研究集録』第9冊
- 東京都**
- 扇塚古墳発掘調査団編 2001『扇塚古墳発掘調査報告書』、扇塚古墳発掘調査団
- 東京都指定史跡宝菜山古墳調査会 1998『東京都指定史跡宝菜山古墳』

多摩都市計画道路事業 1・3・1号線関連遺跡調査団編 1986『東京都多摩市和田・百草遺跡群』、多摩都市計画道路事業 1・3・1号線関連遺跡調査会

野本孝明 2011『木炭標考』『國學院大學学術資料館考古学資料館紀要』第27輯、國學院大學考古学資料館

千葉県

市原市教育委員会 1968『南大広遺跡・海保古墳群』

市原市教育委員会・(財)市原市文化財センター 2004『市原市辺田古墳群・御林跡遺跡』

市川道行 2003『246 北ノ作古墳群』『千葉県の歴史』資料備考古2、(財)千葉県資料研究財団編、千葉県

大塚初重 1949『上総能満寺古墳発掘調査報告』『考古学集刊』第1巻第3号

上総因分寺台遺跡調査団 1976『南向原-上総因分寺台遺跡調査報告Ⅱ-』

木更津市教育委員会 1990『請西遺跡群発掘調査報告書』

木更津市教育委員会 2001『請西遺跡群発掘調査報告書Ⅱ』

木更津市教育委員会 2002『高部古墳群Ⅰ千葉県木更津市千束台遺跡群発掘調査報告書Ⅵ』

君津市文化財センター 1998『常代遺跡群』『君津市文化財センター研究紀要』8

(財)市原市文化財センター 1990『北旭台遺跡』

(財)市原市文化財センター 1999『市原市大瓶茂間様古墳調査報告』

(財)市原市文化財センター 2006『市原市長平台遺跡』

(財)印旛郡市文化財センター 1988『神々廻遺跡群』

(財)君津郡市文化財センター 1988『小浜遺跡群Ⅰ 俵ヶ谷古墳群』

(財)君津郡市文化財センター 1988『宮脇遺跡』

(財)君津郡市文化財センター 1993『大竹遺跡群発掘調査報告書Ⅱ』

(財)君津郡市文化財センター 1995『神田遺跡・神田古墳群』

(財)君津郡市文化財センター 1996『寒沢遺跡・寒沢古墳群・愛宕古墳群・上用瀬遺跡』

(財)君津郡市文化財センター 1997『谷の台遺跡Ⅱ』

(財)君津郡市文化財センター 1998『谷の台遺跡』

(財)君津郡市文化財センター 2000『-千葉県木更津市板井- 西谷古墳群・西谷遺跡』

(財)山武郡市文化財センター 1997『森の台遺跡(北野支群)』

(財)千葉県資料研究財団 2003『千葉県の歴史』資料備考古2、千葉県

(財)千葉県都市公社 1974『市原市大瓶遺跡』

(財)千葉県文化財センター 1974『菊岡遺跡』

(財)千葉県文化財センター 1977『東寺山石神遺跡』

(財)千葉県文化財センター 1978『佐倉市飯合作遺跡』

(財)千葉県文化財センター 1982『千葉県東南部ニュータウン13-上赤塚1号墳・狐塚古墳群』

(財)千葉県文化財センター 1992『椿古墳群3号墳の調査について』『研究連絡誌』36

(財)千葉県文化財センター 1993『北ノ作1・2号墳発掘調査報告書』

(財)千葉県埋蔵文化財センター 1994『石揚遺跡』

(財)千葉県埋蔵文化財センター 2001『千葉県文化財センター研究紀要』21

山武町教育委員会 1994『島戸境1号墳』

白井久美子 2003『209 神門古墳群』『千葉県の歴史』資料備考古2、(財)千葉県資料研究財団編、千葉県

杉山晋作 1972『古墳時代研究』1

杉山晋作 1973「千葉県木更津市手古塚古墳の発掘調査速報」『古代』第56号

杉山林謙 2003「183 鳥越古墳」『千葉県の歴史』資料編考古2、(財)千葉県資料研究財団編、千葉県

田川道跡群発掘調査会 1980『田川道跡群発掘調査報告書』

千葉県教育委員会 1970『千葉県香取郡下総町・大日山古墳』

千葉県教育委員会 1996『市原市釈迦山古墳発掘調査報告書』

千葉市史編纂委員会 1976『千葉市史』資料編1、原始・古代・中世、千葉市

野田市教育委員会 1991『上三ヶ尾宮前』

堀籠浅間古墳群調査会 1984『堀籠浅間古墳』

茨城県

茨城県 1994『茨城県史料』考古資料編、古墳時代

岩井市教育委員会 1975『上出島古墳群』

岩瀬町教育委員会 1969『常陸孤塚古墳』

大塚初重・小林三郎 1964「茨城県勸使塚古墳」『考古学集刊』第2巻第3号

上川名宏他 1972『茨城県筑波町山木古墳』、茨城考古学会

(公財)茨城県教育財団 2014『面野井古墳群』

後藤守一・大塚初重 1957『常陸丸山古墳』、丸山古墳顕彰会

斎藤忠 1974「佐自塚古墳」『茨城県史料』考古資料編、古墳時代

増田清一編集代表 1981『筑波古代地域史の研究 昭和54年度～56年度文部省特定研究経費による調査研究概要』、筑波大学

茂木雅博 1972『常陸須和間遺跡』、雄山閣

茂木雅博 1976『常陸浮島古墳群』、浮島研究会

茂木雅博・高橋和成 2006『常陸真崎古墳群』茨城大学人文学部考古学研究室編、東海村教育委員会

栃木県

宇都宮市教育委員会 1990『茂原古墳群』

前沢輝政 1977『山王寺大樹塚古墳』、早大出版部

三木文雄・村井嘉雄 1957『那須八幡塚』

三木文雄編著 1986『那須駒形大塚』、吉川弘文館

山ノ井清人 1984「1 山崎古墳群」『真岡市史』第1巻考古資料編、真岡市

群馬県

群馬県史編さん委員会 1981『群馬県史』資料編3、原始古代3

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988『大島上城遺跡・北山茶臼山西古墳』

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008『成塚山古墳群』

前橋市教育委員会 1970『前橋天神山古墳図録』

埼玉県

浦和市道跡調査会 1986『井沼方道跡発掘調査報告書(第8次)』

浦和市道跡調査会 1994『井沼方道跡発掘調査報告書(第12次)』

江南町 1995『江南町史』資料編1、考古

- 大宮市遺跡調査会 1988『中里遺跡・麓山遺跡』
上尾市教育委員会 1978『栗師耕地前遺跡』
上福岡教育委員会 1984『郷土資料第30集埋蔵文化財の調査(VI)』
埼玉県史編さん室 1986『埼玉県古式古墳調査報告書』
埼玉県教育委員会 1977『東谷・前山2号墳』
(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1998『与野市 小村田西/小村田/関東』
(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1999『大宮市 上ノ宮遺跡』
(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2009『鴻巣市 安養寺古墳群』
(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2013『さいたま市 大木戸遺跡II』

福島県

- 伊藤信夫・伊藤文三 1964『会津大塚山古墳』、会津若松市史出版委員会
いわき市教育委員会 1985『愛谷遺跡 第1編』
郡山市教育委員会 1998『大安場古墳群-第2次発掘調査報告-』
福島県原町市教育委員会 2001『板井古墳群上流支群7号墳発掘調査報告書』
法政大学文学部考古学研究室 1985『元屋敷古墳群の研究』

宮城県

- 仙台市教育委員会 1983『史跡遠見塚古墳昭和57年度環境整備予備調査概報』
辻 秀人 2008「大塚森古墳の研究」『歴史と文化』東北学院大学論集第43集
角田市教育委員会 1992『西屋敷1号墳・吉ノ内1号墳発掘調査報告書』
宮城県教育委員会 1980『金剛寺貝塚・宇賀崎貝塚・宇賀崎1号墳』

福井県

- 青木豊昭 1986「108川島古墳群」『福井県史』資料編13、考古、本文編
大野市教育委員会 1980『大野市文化財調査報告第1冊 山ヶ鼻古墳群』
大野市教育委員会 1993『大野市文化財調査報告第5冊 山ヶ鼻古墳群II』
斉藤 優 1960『足羽山の古墳』
清水町教育委員会 2002『小羽山古墳群 小羽山丘陵における古墳の調査』
清水町教育委員会 2003『風巻神山古墳群 風巻丘陵における古墳の調査』
清水町教育委員会 2004『片山島越墳墓群・方山真光寺跡塔址』
福井県教育委員会 1976『安保山古墳群』
福井県教育委員会 1976『岩内山遺跡』
福井県教育委員会 1977『立洞2号墳・山の上1号墳』
福井県教育庁埋蔵文化財センター 1999『袖高林古墳群』
福井県教育庁埋蔵文化財センター 2000『城山古墳群』
清水町教育委員会 2002『小羽山古墳群 小羽山丘陵における古墳の調査』
清水町教育委員会 2003『風巻神山古墳群 風巻丘陵における古墳の調査』
清水町教育委員会 2004『片山島越墳墓群・片山真光寺跡塔址』
福井市立郷土歴史館 2010『小羽山墳墓群の研究 越地方における弥生時代墳墓の研究 資料編』
福井市立郷土歴史館 2010『小羽山墳墓群の研究 越地方における弥生時代墳墓の研究 研究編』

- 鯖江市教育委員会 1967『福井県鯖江市 王山・長泉寺山古墳群』
 鯖江市教育委員会 1973『鯖江市 西大井古墳群』
 鯖江市教育委員会 1987『鯖江市埋蔵文化財調査報告 西山古墳群』
 福井県 1986『福井県史』資料編13、考古 本文編・図版編
 福井市 1990『福井市史』資料編1、考古
 福井市教育委員会 1965『鼓山古墳発掘調査報告書』
 福井市教育委員会 2012『福井市古墳発掘調査報告書Ⅰ 酒生古墳群・花野谷古墳群・熊野山古墳群・足羽山古墳群・西大味古墳群』

森川昌和 1986『113小谷ヶ洞古墳群』『福井県史』資料編13 考古 本文編

若狭三方縄文博物館 2006『松尾谷古墳-前方後方墳の発掘調査-』

石川県

- 石川県教育委員会 1974『金沢市セツ塚墳墓群』
 石川県立埋蔵文化財センター 1997『宿東山遺跡』
 石川県立埋蔵文化財センター 1997『垣吉遺跡』
 加賀市教育委員会 1990『吸坂丸山古墳群』
 鹿西町教育委員会 2005『史跡 雨の宮古墳群』
 金沢市（金沢市埋蔵文化財センター） 2004『石川県金沢市神谷内古墳群C群』
 七野古墳群発掘調査会 2010『七野墳墓群発掘調査報告書』
 田嶋明人 1988「小菅波4号墳」『定形化する古墳以前の墓制』第Ⅱ分冊一近畿、中部以東-埋蔵文化財研究会
 和田晴吾 1984「石川県国分尼塚1・2号墳」『月刊 文化財』11号

富山県

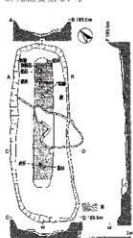
- 富山市教育委員会 2012『富山市百塚遺跡発掘調査報告書』
 富山大学人文学部考古学研究室・小矢部市教育委員会 1989『谷内16号墳』
 富山大学人文学部考古学研究室編 2007『阿尾島田古墳群の研究-日本海中部沿岸域における古墳出現過程の新研究-』
 米見市教育委員会 2001『柳布尾山古墳 第3次調査の成果』

新潟県

- 三条市教育委員会 1989『保内三王山古墳群 測量・発掘調査報告書』
 胎内市教育委員会 2013『第1回城の山古墳シンポジウム 眠りから覚めた城の山古墳』
 寺泊町教育委員会 2004『新潟県寺泊町屋鋪塚遺跡発掘調査報告書』
 新潟大学考古学研究室編 1993『越後山古墳』新潟県巻町教育委員会

山形県

- 米沢市教育委員会 2000『遺跡詳細分布調査報告書第13集別冊 横山古墳』



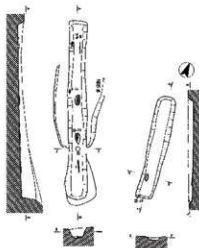
三重縣東山古墳



坂本山6号墳

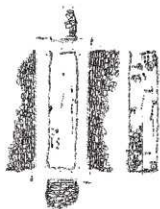


藤山古墳

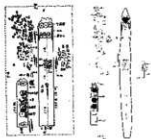


八重田1号墳第1

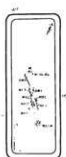
同第2



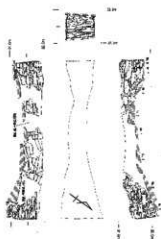
嵯峨鹿門法寺古墳



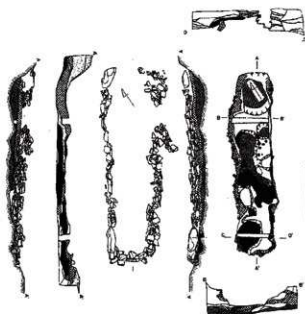
矢道長塚古墳



春日山1号墳



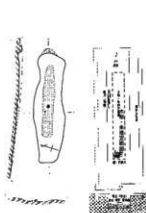
春日大塚古墳



花岡山古墳



菅根S22

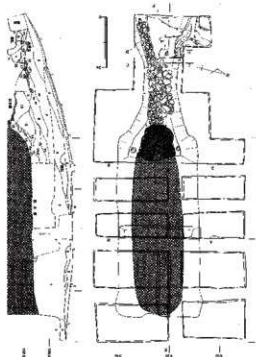


鹿門寺1号墳

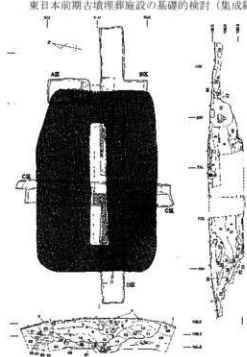
鹿門寺13号墳

舟橋山白山古墳

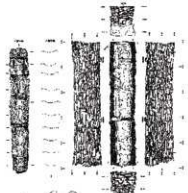




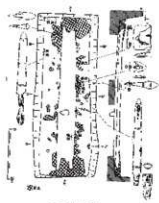
城原馬前波長塚古墳後門部



前波長塚古墳前門部



愛知馬塚古墳



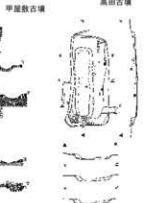
三ッ山1号墳



三ッ山2号墳



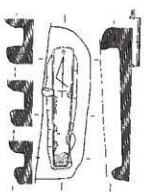
白山新古墳



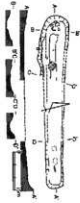
大平内15号墳



高野古墳



静岡馬塚平古墳

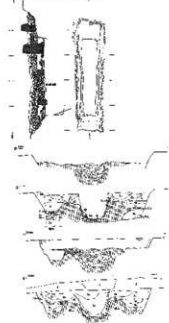


権現平山第7号墳

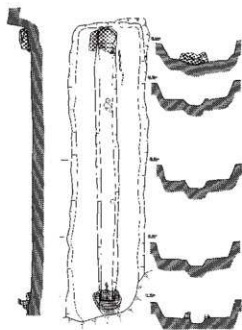


赤門上古墳

集成2



新豊院D 2号墳



蓮城寺5号墳

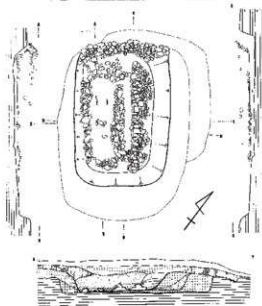


松林山古墳



元鳥古墳
1/100

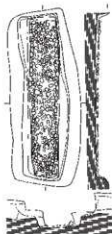
城山古墳



魚野原3号墳



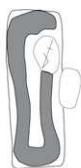
高羽美古墳



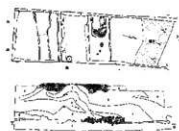
玉免1号墳



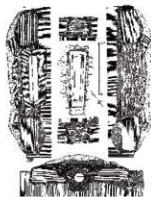
若王子12号墳



牛玉堂1号墳



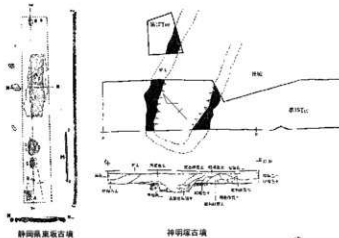
牛玉堂3号墳



三池平古墳

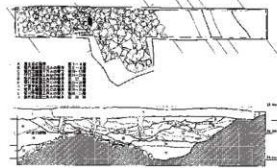


集成3

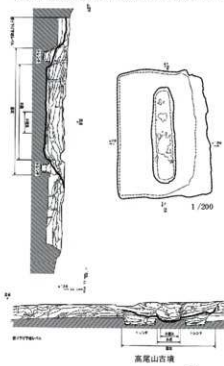


神岡風東墓古墳

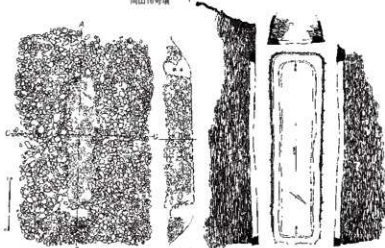
神明塚古墳



向山16号墳



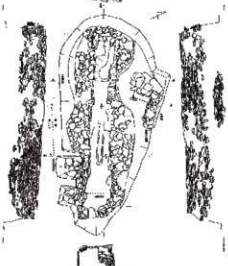
高麗山古墳



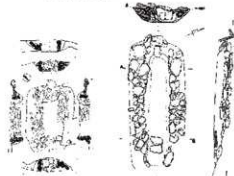
長野県弘法山古墳



森野塚古墳



有明野塚山古墳



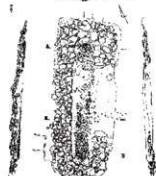
北平1号墳



大里山3号墳1号石部

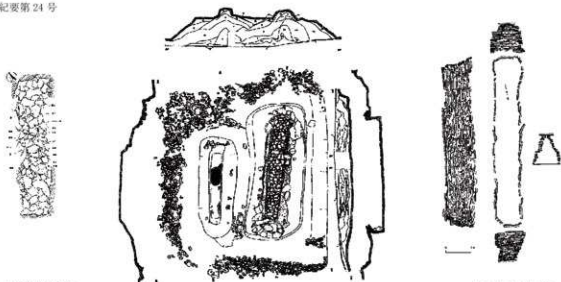


大里山3号墳2号石部



大里山1号墳1号礎

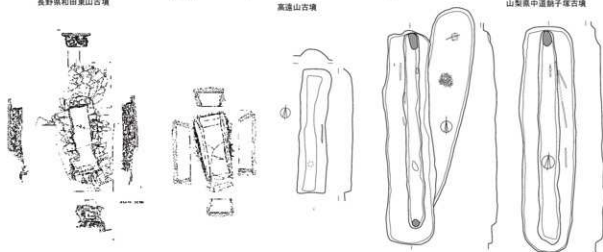
集成4



長野県和田原山古墳

高遠山古墳

山梨県中道獅子塚古墳



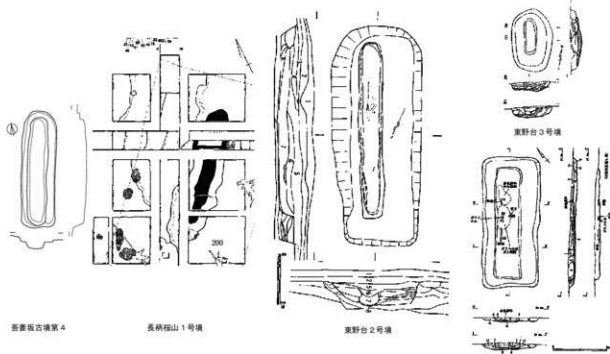
大丸山古墳石部

大丸山古墳石棺

神奈川県吾妻坂古墳第1

吾妻坂古墳第2

吾妻坂古墳第3



吾妻坂古墳第4

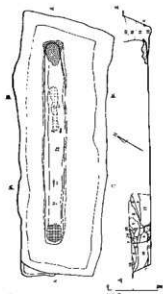
長柄柙山1号墳

東野台2号墳

東野台3号墳

新羽南古墳

集成5



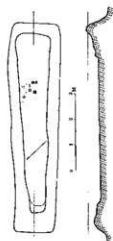
虚空蔵山古墳2号



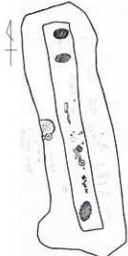
神奈川県虚空蔵山古墳1号



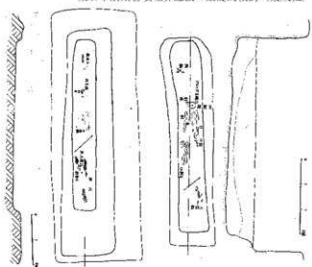
加瀬白山古墳南粘土部



加瀬白山古墳前方粘土部

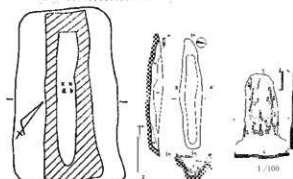


観音粘土古墳粘土部



加瀬白山古墳北粘土部

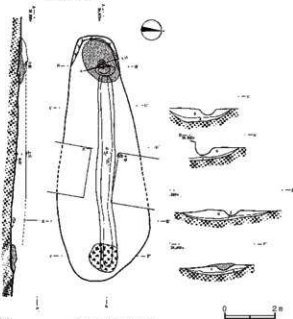
加瀬白山古墳木炭部



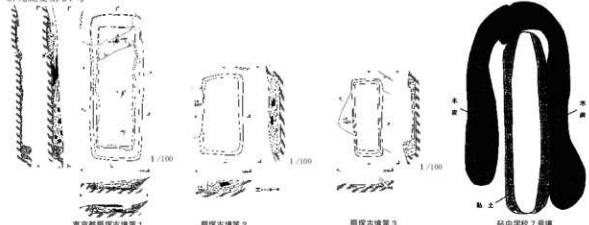
久地伊羅之免古墳2号 東京都宝塚山古墳



稲荷前1号墳



久地伊羅之免古墳1号

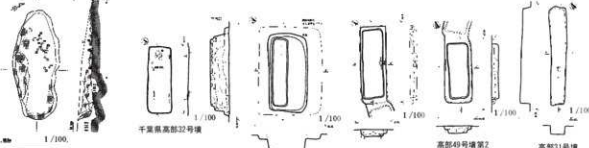


東京都稲塚古墳第1

稲塚古墳第2

稲塚古墳第3

松中學校7号墳



千葉県高部32号墳

高部30号墳

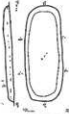
高部49号墳第1

高部49号墳第2

高部51号墳



和歌山・百草521



神田3号墳



徳谷津4号墳第1

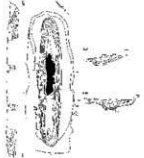


徳谷津4号墳第2

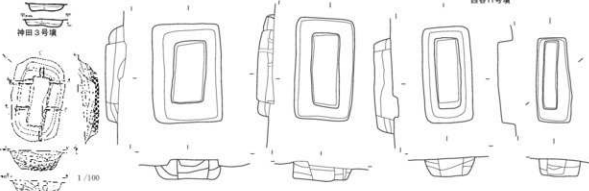


第2

角越古墳



西谷11号墳



安石4号墳

二又畑6号墳

二又畑7号墳

二又畑6号墳

二又畑2号墳



二又畑1号墳



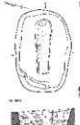
柿3号墳第1



柿3号墳第2



田川2号墓



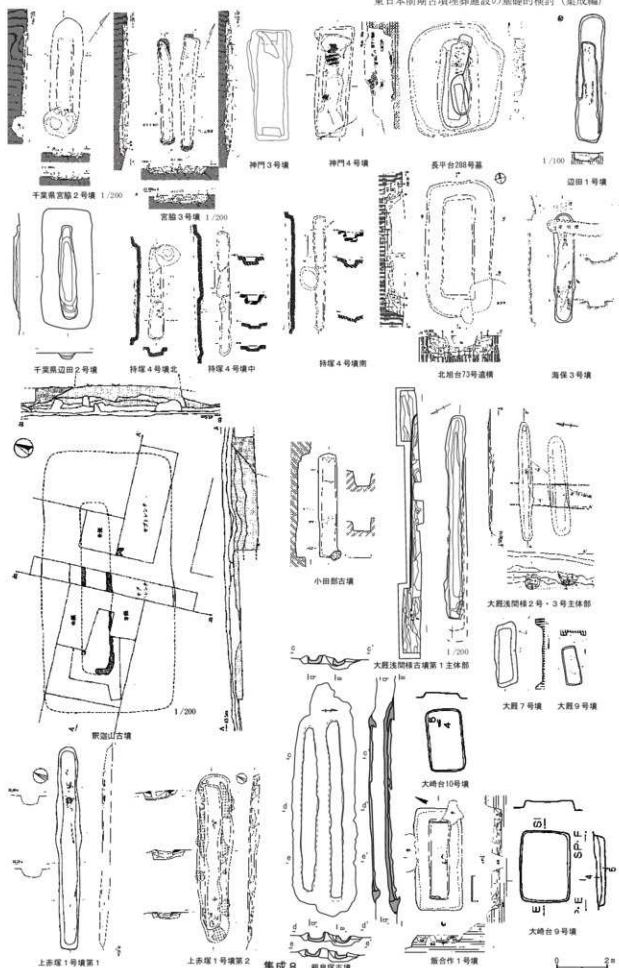
宮脇3号墓



宮脇4号墓

集成7







千葉廣大日山古墳

堀籠浅間1号墳

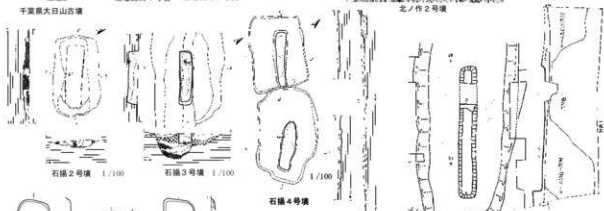
堀籠浅間2号墳

木炭

北ノ作1号墳

北ノ作2号墳

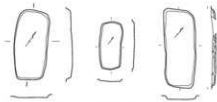
石籠1号墓 1/100



石籠2号墳 1/100

石籠3号墳 1/100

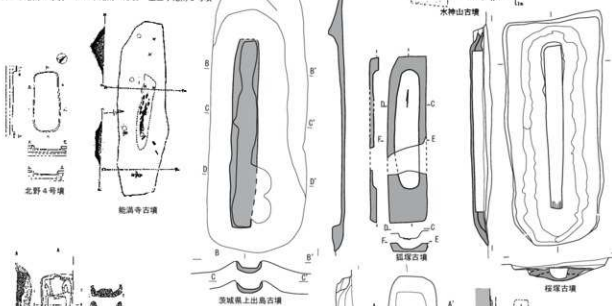
石籠4号墳



上三ヶ屋南1号墳

上三ヶ屋南2号墳

上三ヶ屋南3号墳



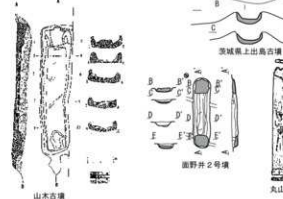
北野4号墳

龍満寺古墳

水神山古墳

狐塚古墳

塚塚古墳



山本古墳

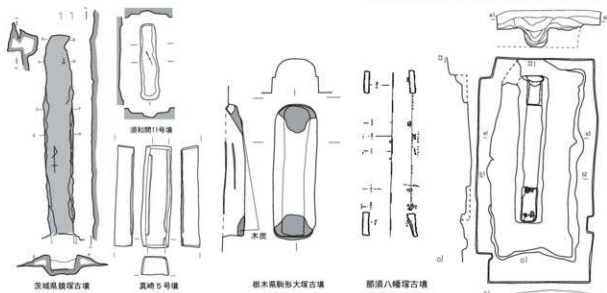
浪城系上出鳥古墳

面野井2号墳

丸山1号墳

源1号墳

勸使塚古墳

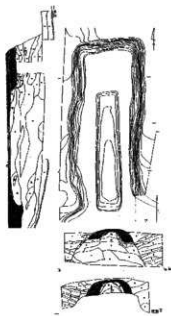


茨城黒屋塚古墳

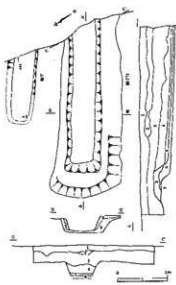
高崎5号墳

栃木黒駒形大塚古墳

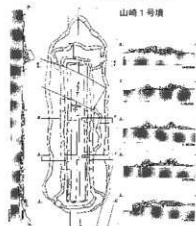
那須八幡塚古墳



茨原愛宕塚古墳 1/200

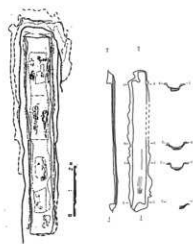


山王寺大塚塚古墳



山崎1号墳

野島興成塚内山古墳

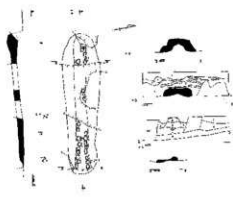


前橋天神山古墳

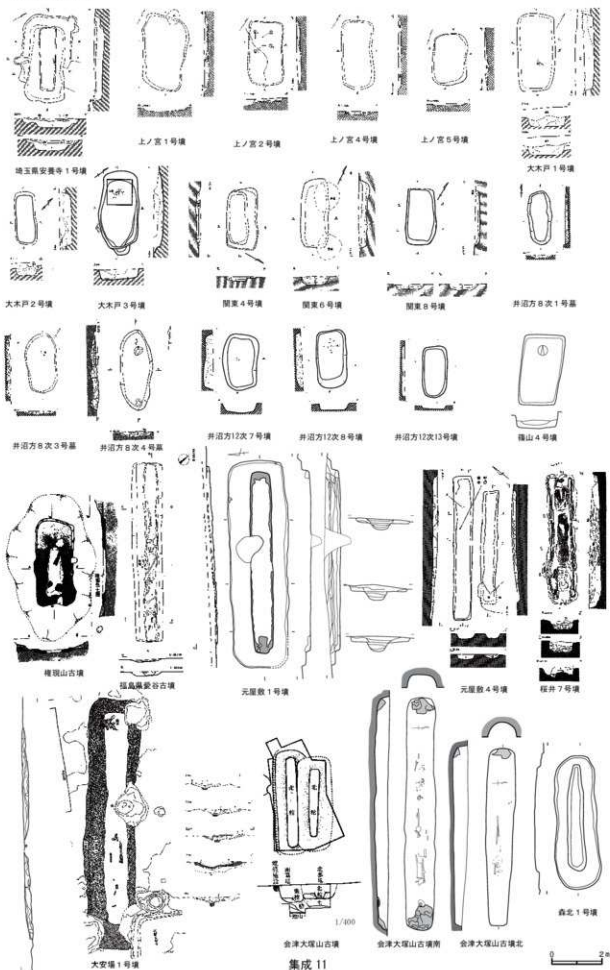
野倉2号墳



北山茶臼山古墳

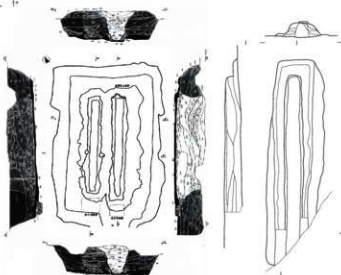


埴玉黒前山2号墳



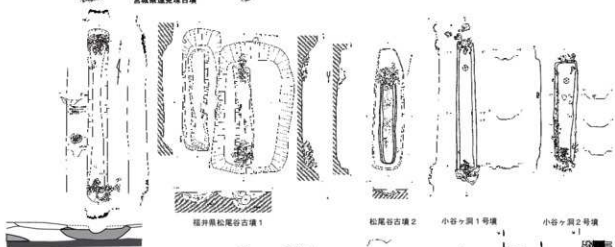


宮城縣遠見塚古墳



大塚森古墳

西屋敷1号墳



稲井兼松尾谷古墳1

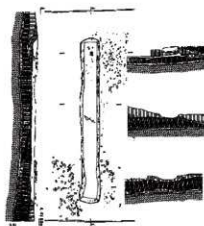
松尾谷古墳2

小谷ヶ洞1号墳

小谷ヶ洞2号墳



宇賀崎1号墳

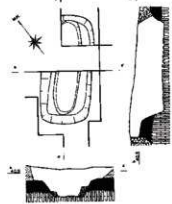


立洞2号墳



岩内山17号墓

岩内山石塚墓

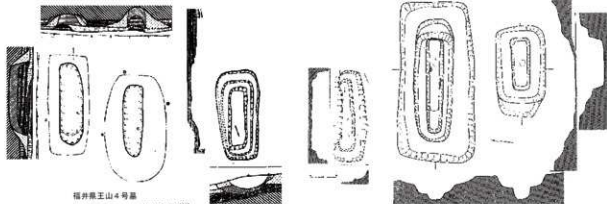


西山1号墓



西山3号墓



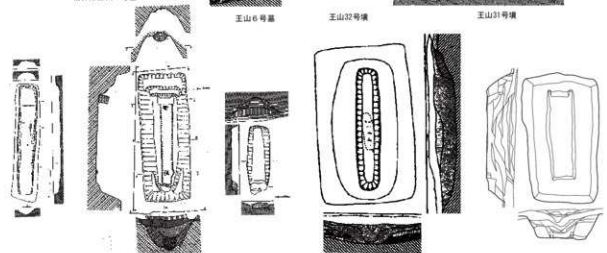


福丹麻王山4号墓

王山6号墓

王山22号墓

王山31号墓



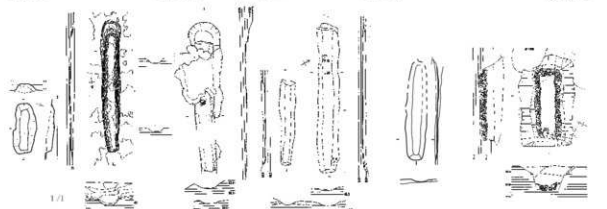
高山2号墓

高山3号墓1

高山3号墓第2

高山4号墓

小羽山50号墓



小羽山33号墓

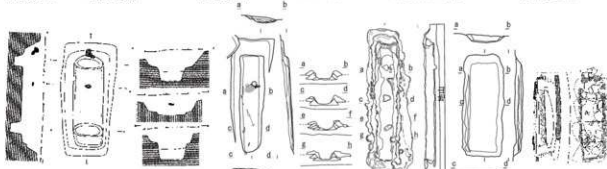
小羽山2号墓

小羽山12号墓

小羽山25号墓

風巻古神山4号墓

片山鳥越5号墓



栗山1号墓

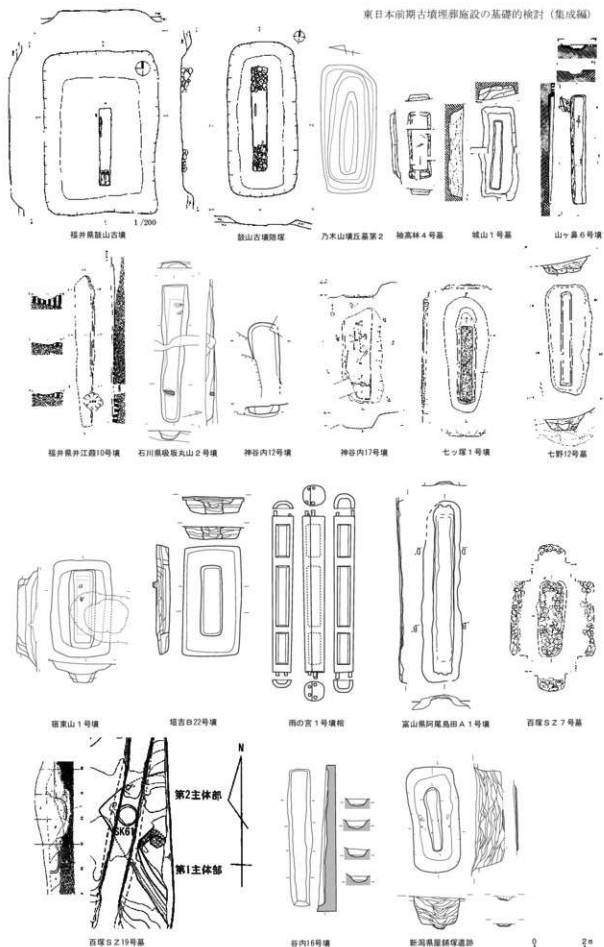
花野谷1号墓

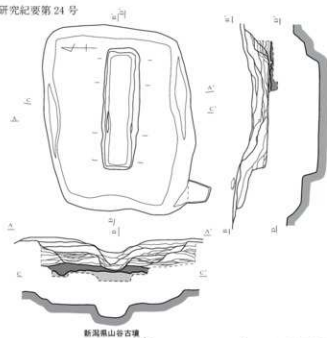
安保山1号墓

安保山2号墓

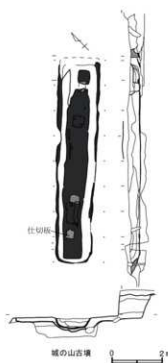
山頂古墳



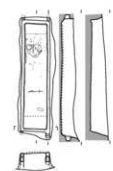




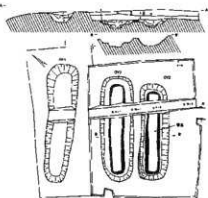
新高橋山古墳



城の山古墳



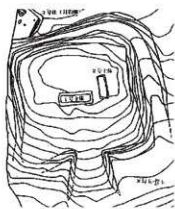
保内三王山111号100



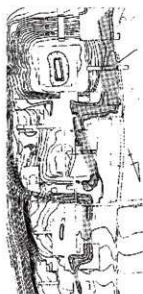
山形縣横山古墳



佐白塚古墳埋跡施設(茨城県1974より引用)



石川縣小菅渡4号墳



石川縣園分1号墳・同2号墳



茨城県佐白塚古墳

1/1000

研究紀要 第24号

発行 公益財団法人とちぎ未来づくり財団
埋蔵文化財センター

〒329-0418

栃木県下野市紫 474 番地

TEL 0285 (44) 8441 (代表)

FAX 0285 (43) 1972

HP : <http://www.maibun.or.jp>

発行日 平成28年3月29日発行

印刷 下野印刷株式会社
